

# 除夜の鐘

平成22年12月第4週放送

一年が経つのは早いもので、もう年の瀬が迫ってきました。日本では大晦日おおみそかに必ず行われる仏教行事として「除夜の鐘じょや かね」があります。

大晦日は、古い年を除き新しい年を迎える日のことで「除日じょじつ」といい、その夜のこじょやとを「除夜」といいます。

除夜の鐘は、人間の持つ煩悩ぼんのうの数である百八回の鐘を撞つき、それを取り除き新しい年を迎える意味があるといわれています。

煩悩ぼんのうとは、私たちの心の乱れのことをいいます。

一説には、それは眼・耳・鼻・舌・身体・こころろっこんの六つ、つまり六根に、好き・嫌い・無関心の三つが備そなわり十八の煩悩になります。またそれぞれに、きれいか、きたないかが加わって三十六。それを過去も現在も、また未来にわたって持つてしまうということで百八の煩悩が生まれてしまうといわれているのです。

修験者しゅげんじゃが、修行のために山に登るときに「六根清浄ろっこんしょうじょう」と唱えながら歩いているのも、煩悩を除いて清らかになろうという思いを込めて修行しているからなのです。

除夜の鐘は、多くの方が大晦日のうち、つまり年内に百八回の鐘を撞くと思われているようですが、じつは百七回を大晦日のうちに撞き、最後の百八回目は年が明けてから、これら百八の煩悩にとらわれずに新しい年を迎えようという願いを込めて撞く、といわれているのです。

最近は多くのお寺で一般の方も除夜の鐘を撞けるようになりました。多くの人が集まり鐘を撞くために並んでいるお寺もあります。百八名の人に限っているところもあるようですが、回数にこだわらず多くの人に鐘を撞かせてくれるお寺もあります。また、甘酒やお汁粉を振る舞っていたり、お守りをいただけるお寺もあります。

ぜひ、近くのお寺に除夜の鐘を撞きにお出かけになって下さい。

雪の降る中や、寒さで息が白くなるような冷たい空気の中、また夜の静寂せいじゃくの中などで聴く鐘の音は、煩悩おだのない穏やかな気持ちをさそい、新たな年が良い年であるように心から祈ることができ、希望に満ちた新年を迎えることができるでしょう。